

近畿支部だより

平成 25 年度近畿支部研修会・見学会 印象記

木本 章吾

平成 25 年度の放射線安全取扱部会近畿支部の研修会・見学会は 2 月 4 日(火)に万博記念公園のほど近くに位置する大阪大学ラジオアイソトープ総合センター(吹田本館)で開催され、大阪大学医学系研究科附属 PET 分子イメージングセンターの見学会がありました。筆者の大阪大学への訪問は 2 度目でしたが、改めてその広大な敷地に驚きました。

見学先の PET 分子イメージングセンターへは、約 40 名の参加者が 2 つのグループに分かれて向かい、サイクロトロン、PET 用放射性薬剤の合成装置、動物用 PET 装置などを目の前で見学することができました。

PET 分子イメージングセンターの渡部直史先生に案内していただいた PET イメージング室(写真 1)には、プラナーイメージング装置をはじめ、小動物用 PET-CT 装置、中・大動物用 PET 装置と最新の技術である PET-MRI 複合装置の計 4 台の PET カメラが機能的に配置されており、非常にすばらしい環境の研究施設であると感じました。渡部先生からそれぞれのカメラの特徴を実際の画像を示しながら、どのような違いがあるのかを具体的に分かりやすく説明していただき、大変勉強になりました。

次に、金井泰和先生に案内していただいた PET 化合物の合成室では、住友重機械工業(株)製のサイクロトロン HM-12S、ホットセルに入った様々なメーカーの PET 用放射性薬剤の合成装置、分析用の HPLC などを見学させていただきました。一見複雑に見える合成装置でし



写真 1 撮像の説明をする渡部先生

たが、金井先生が細部まで詳しく説明してくださり、合成の流れも一応理解することができました。さらに、ちょっとした工夫箇所まで説明していただき、同じような仕事に従事している筆者にとっては非常に有意義な見学会でした。

午後からの研修会では 4 名の先生方の講演を聴くことができました。まず初めに大阪大学の畑澤順先生が、今回見学させていただいた大阪大学分子イメージング施設の開所までの苦労話を、ユーモアを交えて話してくださり、楽しく聴かせていただきました。大阪大学という大きな組織での他学部の先生との折衝や病床規制で規制当局との交渉話なども、ほかでは聞くことのできない貴重な話でした。講演の後半は、PET 薬剤の製造や撮像の標準化、PET マイクロドーズ試験を軸に創薬における PET の活用例を講演され、今後の PET 技術の発展が大いに期待できる話でした。

主任者 コーナー

引き続き、放射線管理の分野で長年活躍されてきた2名の方の講演がありました。まず、京都大学の宮武秀男先生の講演では、自身の放射線との関わりを“放射線を学ぶ10年”、“放射線安全管理を学ぶ10年”、“放射線教育に取り組む10年”と10年ごとに放射線との向き合い方が変わってきたことを話され、更に放射線取扱主任者と事業所または放射線業務従事者の関係の重要性についての話も聞かせていただきました。放射線取扱主任者は、個々の事業所の放射線管理だけの放射線取扱主任者ではなく、これからはより広い見識を持った放射線取扱主任者でなければならないという話にも非常に感銘を受けました。

続いて、近畿大学の辰巳香男先生から「故きを温ねて」と題して、これまで経験してこられた放射線管理業務を振り返って、ICRPの勧告・歴史、被ばくに関する知識・防護、そしてリスクの捉え方に至るまでを幅広く話されました。被ばくに対する不安が自己増殖する原因は、中途半端な知識であり、解決にはリスクコミュニケーションが大切であるという話は、放射線管理に携わる者として常に頭の片隅に留めておく必要があると感じました。辰巳先生の講演からは、精神面から見た人と放射線の向き合い方を学ぶことができました。

研修会の最後の講演は大阪大学名誉教授の山本幸佳先生でした。蛍光ガラス線量計について、その原理・種類・測定方法などの基礎知識から最新の蛍光ガラス線量計の優れた特性と応用の可能性などについて聞かせていただきました。特にビーズタイプのガラス線量計はフレキシブルで容易に取り扱うことができますので、福島第一原子力発電所のような事故の際に汚染検査等の効率を飛躍的に上げることができるのではと感じました。放射線管理に携わる者としては、日常の放射線管理にも活かせる可能性も



写真2 辰巳先生(左)と宮武先生(右)

あり、この開発の動向に注目したいと思います。

今回の近畿支部研修会・見学会は1つの大きな節目を迎えたと感じる会でした。それはこれまで近畿支部の委員として、長年支部の活動を牽引して来られた宮武先生と日本アイソトープ協会の本部委員として活躍して来られた辰巳先生が定年を迎えられたからです。2人ともこれまでと同じ施設で今後も活躍される予定とのことですが、懇親会ではこれまでの活動に感謝の気持ちを込めて大河原賢一支部長から感謝状の贈呈がありました(写真2)。

今回の見学会・研修会に参加して、3年前の東日本大震災以降に筆者自身が感じていた第三者に対して放射線に関する理解をより浸透させることの重要性を実感しました。これからは放射線管理に係わる関係者が大学・企業などの枠を超えて交流を深め、連携して、より良い放射線の安全管理に取り組んでいく必要があると感じました。これには今回のような親しみやすい研修会が最適だと思います。

最後になりましたが、今回の研修会・見学会でお世話になった大阪大学の先生方、近畿支部委員の皆様がこの紙面をお借りして心からお礼申し上げます。

((株)アトックス神戸医療事業オフィス)